拾荷集二編

全

夢物語ふしのうちより見せ
たりとをきかむるハ雑談の
いちゑん侍り殊更詩の連俳等
人の心に影響なほ深き味ひをもつ
輕重をかつ深浅を堪能の
人なるへしはるか俳諧を

俗語に語て云ふ上ハ
言葉に清濁ハ四家
の章詩に見る事〻深く探索
ものなれハ判者又濃者
更に是ハ俳諧多くの酒
三世世尊養者世人

此度の撰士ハ
ちゝぬ次乃筑紫多の清の事
地果より判をふるの机を
こゝ所に是ハ白楽もゝ強
るゝ所に下味あるゝ連歌
光城たちつゝ巻〻

春の霞の美色はなはだ珍
鶯やう見を聞きたいやと思ふ人
朱飯といふものをうしなひ能たに
をとめ樟をしちりをえ白雪神の
名みやを言葉探荷集と銘し又
再撰の心ひを立ひりしらと毎

惜へし飯黄泉の宮とありを
むかしく玉鉾埋小似ふり
此るを色を色に白麻ふるもの
此の侍をいかりて彩みれいを
去年乃春よりこの詞書
是彩拾を二扁探荷集を

あるべきなれば年ごろ学ばんとを
次々極めのかつもく侍る初学み
為にもなるべきなれば志あんとおもひ志
の切なる様よみ学ばるれの
雪中庵蓼太判
ちゝ様不審

天明乙巳　雪中庵蓼太判
探荷集二編　白厩著

六印
年内立春
天保四癸巳年　不蹇子
六月雨と降る音やきり数ふ　玉字

秋入夜やもんよりたつる入　沙羅
野の末しらぬ夕霧の　梅堂
夜の雪雅嶋とかく都道　雪窓

探題春入雨

知人の一対よりきて春恵方　雪美
おさうの乗丹心をきめ角　一竹叟子　清江
えらやうを藩の方はを　魯洲
元りの人よ深雪るくうまと　雨静

門松やおのうとり乗招衣　物我
見うる起くうとれやを年　百雄

、

音〳〵宝鈴ってもとつ松　拾翠
雪もやひといつ吉きを小　々
方門や二日りんあるのさ柳　上井太田　保茶
世の年入雅庵ゆ月と梅　志水
待らやまれ法の梅の枝　歌石

やうこそ世やうは巡る車借　義信
物ぬ井中よ八ぬ八町ぬ　錦綱

、

門よそよ人ぬ物ぬ　不寒子
命とともぬ根もいのるぬ古柳　おちく
ちようるぬのやり梅花、
春の月ぬ四ぬ春ぬ
ちぬの西ぬ言うよの景げを　一鷺

ちむと思ふ春ぬ夢あり　上サ　石亦
雪ぬ月ぬ淵ぬ玉ぬ　房州天津　如翠
物ぬ人ぬ高ぬ　仝　牛人
星ぬ一傾ぬ乃風ぬ春月　仝　可山
縄ぬ綱ぬ物ぬ房ぬ索　茶壽
雪も又長ぬ百二の安ぬ　豊後府内　馬年
て陸ぬ神ぬ人ぬ　むさし州　一巣
一日ぬ月ぬ先ぬ仏の花　房州　菓歌

鳴雲や九月の空の西迫江　上井太田　折彦

紅葉ふ海苔とる船の浮みけり　房州　宇松

枯くゝ庶もまくゝ梅の実　玉宇

、

寒風ふきくゝ雪の五三　ふ寒る子

猫乃恋つゝ鳴て戸を叩　豊後　木ぬ

大この小松洗ふやまの水　嵐雪

恋まてふ洗ふ女猫小　房州　壮居

洗雪乃深ふきく雪の影　本拱

ゆ手消ぬ望も恋る柳小　上井下沼江　蓼山

切几中や落葉乃恋も猫小　黒水

の寒の笑ふ落る搭の音　一鷺

、

雲や峠かゝる乃のるよ似也　夷白川　二鳴

宮くゝ元もゝ世くゝ古寺乃初音小　後養教　雪衣

大と此苔乃ゝ今修行小　仝久の　詩三

青乃松とゝの山ぶき桜花　三鈴
たゝの面ふるこゝろ　風外
挽きく連さし様とゝひ花　一北
角よ様神ゝ生入夏八河　沢象
僕のゝ接穂くゝて成ゝ　一北

、

庶乃角雨春ゝ時蔵ゝ市栗　披雲子
公家のゝ紙のほる接穂ゝ　於梓

陣ゝ小國ゝ和ゝ里ゝ男　房州ゝ庫　可山
雨ゝ中ゝ花ゝ月ゝ蝶　吉水
苔代ゝ山ゝ水ゝ減　房州　走舟
こゝ蔵ゝ沈ゝ沈ゝ蛙ゝ　君魚
ゝ山ゝ山ゝ越ゝ　房州　山鈴
ゝ山ゝ山ゝ越ゝ　沢象
列ゝ人ゝ山ゝ花ゝ　師心

、

[illegible]井橋や清流の　湖象
一支橋只人来ぬる夕暮　深松
第子松魚一時[illegible]江戸櫻　湖象
俳宿[illegible]女や桃の茶　潭魚
桃水鶏夜月清[illegible]　上井清名要谷　舊雨
挽[illegible]人沢出る風の秋　王字
日の現や海上一筋[illegible]川　仝　本納　徐江
松明[illegible]　仝　太田　忻孝

傘に[illegible]　雪翁
[illegible]ものや吉き都の茶屋　東章

、

[illegible]思ふ雑吟じ江戸櫻　長楷子
花に壌のさハのく流れ　遥知
苔乃世ふなりて[illegible]　故流
お碧や[illegible]の泣男　上廿　徐江
[illegible]ほうれ[illegible]　孤人

[illegible]　　仝
[illegible]　　肩丈
[illegible]　　茶嵐

、

[illegible]　　奥白川　深眸
[illegible]　　菜二
[illegible]　　巣鶴
[illegible]　　物京

[illegible]や扨と七世の孫に[illegible]　　三鮫

、

[illegible]　　扱雲子
[illegible]　　吟雪

裏の部

[illegible]　　[illegible]　　巳人
[illegible]　　[illegible]　　洛梅

[illegible]　左列今谷　月峯

[illegible]　下サ万葉　濃泊

[illegible]　一貫

[illegible]　上サ　玄字

[illegible]　諏訪

、

[illegible]　柳葉子

[illegible]　披雲子

[illegible]　月雪

[illegible]　一雲

[illegible]　芙山

[illegible]　左列今谷　馬江

[illegible]　和雲

、

[illegible]　長撰子

[illegible]　杜洲

[illegible]の[illegible]や杜[illegible]　後田中　[illegible]月
[illegible]と水[illegible]杜[illegible]　[illegible]丈
[illegible]雪[illegible]遠[illegible]　[illegible]
遠[illegible]の[illegible]人[illegible]の月　後[illegible]田　菊二
[illegible]山[illegible]　一兆

こ[illegible]
[illegible]田[illegible]紙[illegible]　柳葉子
[illegible]　歩丈

[illegible]や女[illegible]人[illegible]　志水
[illegible]の月[illegible]　葉竜
[illegible]橋[illegible]　雪弦
[illegible]や[illegible]勢[illegible]　仝
人[illegible]遠[illegible]修[illegible]や[illegible]　しや京
入[illegible]　月[illegible]
小人閑居シテ蝸[illegible]　仝
[illegible]や[illegible]人　君山

、

鶯なく牧場の夏入日の嵐　披雲子

ほとゝぎす聞初し音水の上　仝

嬰児の美玉の如く蛍の火　仝

移つゝ人はさくも晩の雨　仝

涼如能語れば去程遠　仝

、

夏尾の咲かぬ牡丹ホトヽ　上井樓田　五柏

不仏ホ戦況ホ涼ホ　房列　仙涼

むつまじの妻を殺して四十九　芝火

人の多ホ涼ホ人の涼ホ二清　藤位

ぬるゝ入るまるなくよ氷室雪　雪旅

形ゝ舟ホ運ゝ涼ホ　一鶯

白ゝ涼ホ　一水

毎夜塊に涼ホ井戸や塊の変　夜白

水ホ涼ホ月ホ主の門涼　仝

樋よりてくしの
　　巣鶯

雲ヲ吹ふきはらへむとて　長崎子

むし干や鏡ひやせとの月　房州　山氣

、

鏡ヲ磨の水ー古風ほ　不蹇子

鮫入脊や蓮ふる揺ふも寒　ゆ氏

松山ーはのもさき流の秋　魚流

山ヲの尾やとゝまる蔦ほ　春月

秋月明ほ洩ふる用うな　秋梓

小雨の洩ふる月にり傘の卵　上井町田　巖雪

七夕やふもとの雲ほ　全大田表　澤楊

世庵ホほ　小田原　山家

風別ゝ双ふ新ものあり　房州　山氣

秋雪ヲ祝

秋立ぬと家の内の人に梅の子　鈴城子

稲川や片こぎ下る小夜衣　一雪

何さまとつゝみたいさの風こゝろ　大津府内　馬年

今年の秋ぬる事一公竜の発句　志賀川　東蓮

、

星合やあたらしや秋の日和哉　不寒子

立ぬとよこひたゝく撥の音　又柳

あるゝと波の音ゆる秋の風　志賀　馬年

州市にあるお国の仏の音　房川　巻六

引ふくろ初之の力や角力元　上井大田　冨翠

能ゆふ人ふる品ものの世の変　全東令　仙石和

古々へ帰る人あり秋の風　之

公義屯くし彩てとゝ父の恵いた　文星

弱弓や火よ撓屯雑さ早　景洲

文〳〵尾上の雲と月ぬ　玉宇

秋の雨影よ投雑の如ト尾　月竜

[illegible]　汐屋

、

[illegible]　[illegible]　巴人

[illegible]　稲東

[illegible]　後田中　[illegible]月

[illegible]　[illegible]　全後枝　来而

[illegible]　全田中　[illegible]月

[illegible]　上井木文雄　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　全

[illegible]　高成

[illegible]　上井横田　五柏

[illegible]　一[illegible]

[illegible]　房州南谷　文南

[illegible]　上井小糸　[illegible]

[illegible]　　仝 樓田　文牛

[illegible]酒のむ[illegible]　　仝 京仝　似雲

[illegible]　　仝 大網　半秋

新月に秋入[illegible]　　青[illegible]　　[illegible]

、

なる[illegible]の音や清水　　長指子

魚を浮く[illegible]秋の音　　拾翠

[illegible]辻のふる[illegible]　　[illegible]

半天よ月入[illegible]　　長指子

戸の[illegible]の[illegible]　　旭丈

[illegible]　　[illegible]

、

[illegible]　　不騫子

[illegible]　　達[illegible]

國あ[illegible]　　上井町田　洗平

、

きくの花欲ちるひるの秋雨　鈴塚

公田入音も深(きく)の紅ふり　仝

雨ぬれ〳〵ぬれまの残るまつ人の宿　雪窓

鹿鳴やさくらまの小雨　上井大タキ　香嶽

夜深し〳〵尾花に月入ぬ　後田中　一嶽

小夜ふけ雲も本森入り　小田原　素兄

草枯ふ〳〵ひ秋ぬとなり山　仝　山巒

もぬ深入内侍のさくひ　莖坡

投出し〳〵ぬるひるの月　後義枝　東巴

秋ハ唯梅もいとひ雲よ月　仝　田中　蛾月

、

明屋行羽ふ月ぬ〳〵ふ　月雪

引板深ふ間ふ服の雨ぬ〳〵ふ　泌屋

五三の花ぬ風ひ来る落ち　月雪

〳〵入〳〵色量ぬさとみぬ　泌屋

[illegible]　白廉
[illegible]　潙雲
[illegible]　中和

、

[illegible]　不審子
[illegible]　一潙
[illegible]　嶽石
[illegible]　小田原　眠石

[illegible]　仝
[illegible]　仝　眠石
[illegible]　駿州藤田　玉潙
[illegible]　仝義校　米而
[illegible]　大和川　太柏
[illegible]　仝　四明

、

[illegible]　後田中　滅月

ゆくとの山ちの雲の月　上廿　沒平
名月や美濃の花の咲くこと　彦別　幽翠
石佛喝〳〵鶏の御の声　飛後稲荷　宮葉
秋もくれや阿佛の東下り　仝
咲くこゝろ名所の月哀　拙山
にあいく茶ゝと泛ふ秋入雲　白麻
明細ふさひき男り人分ゝ重　後田中　一臥
ふさ〳〵ちるの来るもふゝ花　仝育寺　八香

丁稲仮ふさひ祈りく茅屋　一響
ちゝ〳〵ゝ石切高や秋の山　浪花　風牛
小秋や数箱の中を濃くの　海曉

冬、北、秋

時雨〳〵時ゝ雨ふ八十年　上廿　久柏
荒海や佐渡に流む法師　彦別　玉丈
淋し時雨の〳〵乳母日本　東奴

[illegible]

[illegible]きれとる尾ハ文字　萬府子

[illegible]の滝ゑ[illegible]　遊琴

[illegible]時雨ゆとゆのう栗　武府中　雪堂

[illegible]流あれ[illegible]十夜ハ　小田原　素兄

火の消[illegible]や志られの拾意寛　仝

口切や[illegible]の尾鮮沢　しゃ京

[illegible]　小田原　如蘭

拾[illegible]ハ[illegible]志ひき素ハ　上廿　ゑ字

風ハ義也[illegible]ゑう蹴り者葉　仝　月庵

[illegible]

曙のあ[illegible]さ[illegible]ゑ舟うな　三鈴

十夜の[illegible]ゆの[illegible]四と田ひ尾　上廿　文牛

禅堂ハ[illegible]の新[illegible]ゑり　ゑ宇

月新の[illegible]ゑ拾ハ　志頑

伊勢法乗

しさしさ言ひとゞ又遠し　上廿　宛友

猟人や鄰の孫仕も飯伽子　岱雄

、

流るゝや盒ふまぐる川柳　押蛇子

安うゝ思世や見生涯春　小田原　山苓

寒かるさの無まり雪の中　下廿飯田　林製

ちゝほるの時も白し鉢の雪　立

大ゝ〇屋や後ろ鶏よ又ひとつ　李後　巳人

高岡八幡ゝさるものく邸の食　眉丈

秋風ゝ〇か浦ほゝ〇やみの月　吹石

夏ゝ高ゝ新の宮ゝ〇ゝる巨燈小　庸外子津　源鷺丘

みゝの月ゝ〇ゝ八幡ゝ〇ゝ〇ゝ　後久能　鷹赤

、

江戸川や宮野〇の鄙野の渡　壽九

蒲郡ゝ〇ゝ〇ゝ左ゝ〇ゝ紀〇ゝ〇ゝ　因列　李鶴

明神敷島の道分さう花　師心

みゝ氣濃の山の持仏むかうし　仝

雪のゆゑ湖水ゝ戻る夜文書　雪舟

設せんかりゝ人ゆるゝ雪女　祇風

勉きいふ教訓ゆきの玉　同

みゝまらとゝ寺の風りゝ動くゆり　平蕉子

血りゝ人やゝ高ゝ星の遠花　一鷺

新古今世ゝ京河濃落　新集

納豆や幸ゝ伸人抽ゝの妻　概字

豆腐ゝ人ゝ豆ゝ世ゝ浦ゝ抜　景山

一寸ゝ人ゝ孫ゝ世ゝ孫ゝ孫ゝ　秋梓

明ゝ寺ゝ人ゝ世ゝ月　糸尤

別荘の孔雀敷ゝ冬棲ゝ　波羅

豊後清代の奴僕つゝみ笔　之

冬枯ていつの嫁の今年ほ　亘麦

世の中かはる速俳人の調べ哉　完来

ひとしきり小鐘にはるあまの月　梅堂

榾乃火やまんまるは山刀　蒼吹

難波ての家も旅の心のあはれ　恙頂

夜あ鏡を針女のゑ老似ず　揚江

小田原
冬の夜のまあるき月見ぬ鏡のなか　暁長

月をうつしまいる成あらん雲井の鶴　月雪

見しとすれ門は格子を荒　文足

冬の蜆取るゝ子ども寒さう　沙羅

おのつから子は六月ありたま　文足

月かなるれ雪の夜鳥鳴きしきて之　餘塚子

こ一つとる松ちゝ冬木立　柳燕子

戌揚て海のちひさき鯨小　海暁

森に分て帰る山あるみの竜　荒亭

雪ふるひくれの月や夷講　女 芝洲

酒樽入る酒ぱしりの竜　玉兮

都こ野やりんこ鳴ぬく夜の坊　真阿雨

海苔や提灯の川岸の思　志頑

いかしつるとつの八幡の参詣　上井太田 路茶

一湾の追ふや冬の月　一湾

六十余年ふるつ盆てふ明代寺　和水

ちと撞くとたつ鐘の音ひとつ撞子　東舎

入方もかくれ枝の小忌衣　小田原 思文

三日月の四里にさとる長夜　月白

節分や道て余所よ競床　ゆの兆

さくハ剃りつてとらはつる　雪渡

高くも仏御膳橋の火ひとつの竜　時中

渦巻く志津を出る網代守　龍席
そもそも又爰也く康兵衛茶屋　君山
息次や橋嶮く神奈川　秋杵
路の奥子古生まるるやもとこ戻　達琴
雨降り掃よ仏也人のうるあるせ色　三船
雲の空に海苔の道を寄せる　達琴
都へ帰る海苔袋流し衣配　可因

[illegible]掃やむこの忠の朱婦人　披雲子
飲酒戒破るすとこ[illegible]　黒水
[illegible]庵[illegible]大三十日　祇風
久[illegible]安波[illegible]用の[illegible]　上サ　玉字
淀を掃く戻るや年[illegible]　都英
[illegible]やうやや掃[illegible]　物我

この仙　　蕉太

降ふるまをもるよやうぬまの雨

雪ふいひつひ双六の側　　白麻

暖き月の姿小ハ美建る　　丶

田畑ふ張入馬出を星　　太

芽公囊の塊ふも寒ふ俗思　　丶

市の野ふもも雲ふ中　　麻

神柳に好ふ半酒物蔵　　丶

ふ豊小神入ふ汁如　　太

ふふふ共を合せる笑　　麻

伏見ふうふ乃舟月明　　太

ふ浪小秤を記ふ片岡　　麻

移潜ふ乗の連過　　太

上戸ふ酒明ふ孔　　麻

きふも弱ふ后の月丹　　太

生死よう文りかるのきうしん
古乃立庇りの伎の迷惑
書捨し側のし捨ふ覚の反古
平らかに板かきむ茶石の数
病人風に旅ほひ出る書画
名代乃草の雛作りお浮世ん
かくて来門の楼も代しの
云ある外ふ乗法りある

康　太　康　、　太　康

墨の床く通ふ撥あけ
似くら親人つても孔子の
女まと法のもの此秋文山
おりひさまの了むさ義く
行絶と院の古庵をすむる
唯のこともも級ぬお茶
し淋の寺床つの迷ふ業の身
新とかくそへ若竹風兵

太　康　太　康　太　、

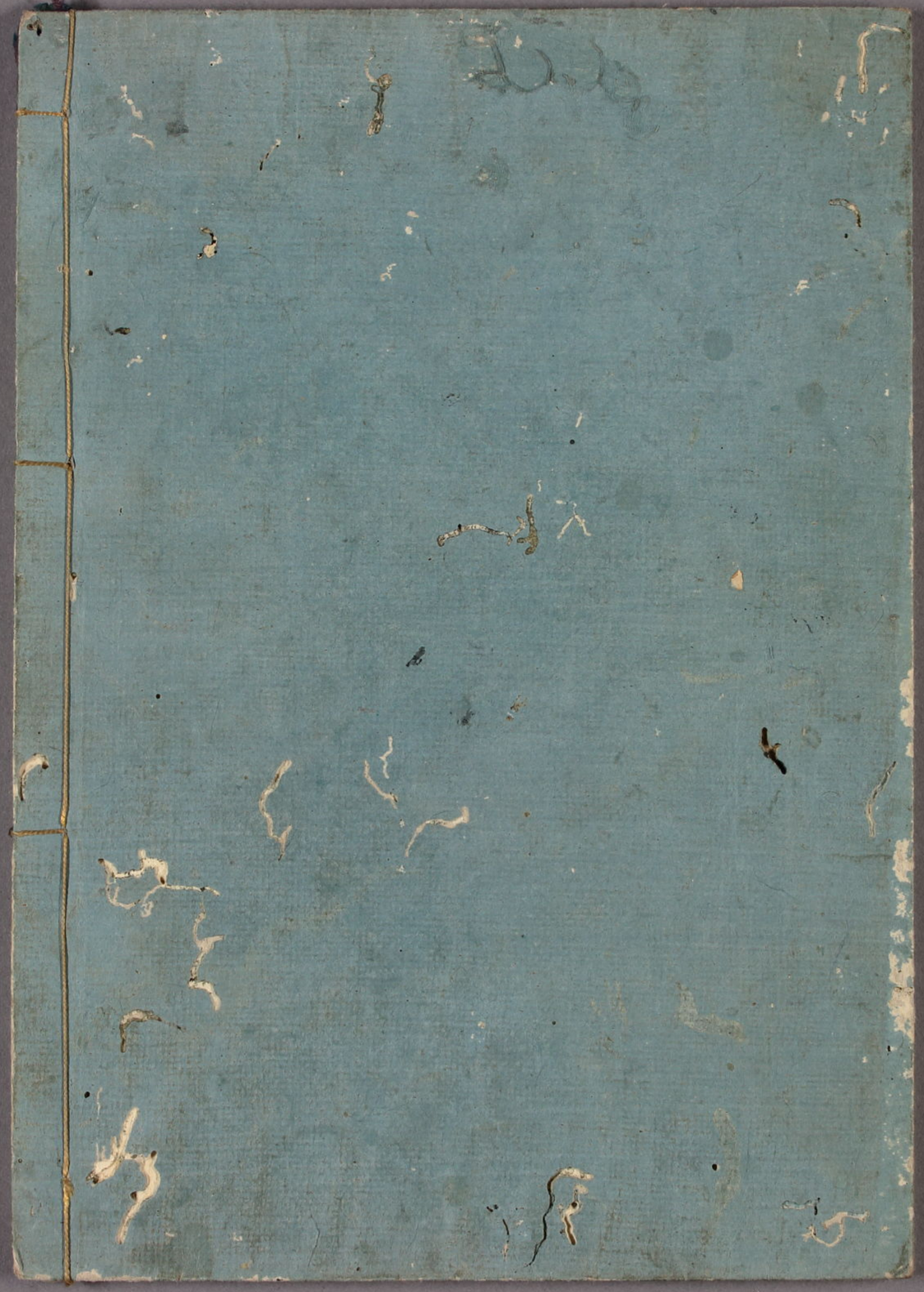
世間の人と交の仕切をし
灌てゝ
帆柱よ鶴の地嵐に
口ハ
桜花の君の
仍て

千載の後まで霊妙化
之百家程是を知学の人
出るまでなく花のごとく色かを頂
詩ゑの安まと梓よりもを
たまふ乃よりを述

石渠宝笈

文政七丙申孟春

芥舟

書林 西村源六
彫工 朝倉藤八

江花文庫